

平成19年度 第2回豊田市生涯学習審議会 会議録

- 【日 時】 平成19年8月23日(木) 午後2時～午後4時
- 【場 所】 豊田市役所 教育委員会議室(西庁舎8階)
- 【出席者】 (委 員) 釘宮順子(フリースペースK代表)
久米昭次郎(市民公募委員)
斉藤秀平(愛知教育大学教授)
佐藤勇恵(豊田市区長会)
清水智子(小学校読み聞かせサークル)
鈴木八枝子(交流館長代表)
田中清恵(子育てネットワークの会ふじおか)
早川清光(まちづくりグループ)
福士範行(青少年健全育成推進協議会)
福島紀美(学識経験者)
藤嶋正美(学識経験者)
牧野 篤(名古屋大学教授)
松浦 崇(市民公募委員)
松元秀喜(市民活動グループ)
山中裕二(小中校長会)
吉田允昭(学識経験者)
- (事務局) 村山志郎(社会部長) 畔柳寿文(生涯学習課長)
大地一成(生涯学習課副主幹) 鈴村博之(生涯学習課係長)
竹内未帆(生涯学習課主査)
- (関係課) 天野正直(自治振興課主幹) 小野修市(次世代育成課長)
須藤寿也(教育行政課長)

- 【次 第】 1 あいさつ
- 2 議 事
- (1) 地域活動を支援する交流館に向けての取組について
- (2) 豊田市教育行政計画に関する意見交換について
- 3 報 告
- ・東海北陸社会教育研究大会(愛知県大会)
(10/18～19 江南市民文化会館ほか)
- 4 連絡事項

【議事の摘要】

1 あいさつ

会 長：こんにちは。お忙しいところ、お集まりいただき、ありがとうございました。

昨日、昔の教え子と一緒に出かけました。彼は今、社長ですが、携帯電話を2台使い分けています。経営者として、通話料を節減するための工夫だそうです。また、通行料の割引のためとあって、ETCも使っていたので、さすが経営者だねと言ったら、今は当たり前のことですよと返されました。

また昨日、中華航空炎上の報道を見て、その前の事故は名古屋の墜落だったと思いましたが、この事故も今から13年前の話で、つい最近と思っていたものですから、10年もたつのはあっという間だと感じました。こんな経験を通じて、時代は流れているが、いくつの歳になっても勉強することが大事だと感じました。本日、2つ大きな議題があります。ひとつは交流館のあり方について、合併後の活動のあり方について、2つは教育行政計画の中の生涯学習関係分についてご意見をいただきたいと思います。先回に引き続き活発なご意見をよろしく願います。

社会部長：猛烈な暑さが収まりつつあります。時代は気候面でも大きく動いています。前回話題にしましたが、都市内分権の仕組みは、8月中にまとめられるよう、議会説明を始めています。その後、地域ご意見をいただきながら、素案を固めていきますが、今回の交流館の議題についても重要なかわりがあります。

今は、時代の変化の中で、一人ひとりが構造的な問題を抱えるようになってきました。一方で、地縁型社会の壁があり、地域社会において課題を共有化し、行政の支援を受けて地域が問題を解決するというしくみがうまくできていません。新しい仕組みで地域力を高め、行政側のさまざまな権限を市民が合理的に使って、地域が問題解決できるようにしていきたいと考えています。

地域力を高める仕組みは、地方自治法202条の4で、地域自治区の設置規程として法律に盛り込まれています。これを受けて、豊田市では、平成17年9月にまちづくり基本条例を定め、中学校区単位で地域自治区、地域会議を条例で設置しました。分権のしくみはできましたが、制度はこれからです。地域への分権では、市長が持っている権限のどの部分を地域に分権させるか、また地域に任せる仕事のどの部分の決定権にするのか、また、地域を代表する意見によって運用が決められますので、地域を代表する意見をどう作るのか、この3つを決めることが大事だと思っています。最初は、行政側も一緒に考え、最低限守るべきルールをつくって、一緒に考えていくことになるだろうと思っています。今は、こんな段階ですが、次は具体的なイメージの元で詰め、19年度までかけて検討します。こんなことを念頭においていただき、交流館が新たにどういう役割を果たしていくのか、ご審議いただければと思っています。どうぞよろしく願います。

2 議 事

(1) 地域活動を支援する交流館に向けての取組について

事務局：資料をもとに説明。

委員：旧市内の交流館活動は、趣味的な集まりがまずあって、その後に長い年月をかけて変えてきました。旧町村は、短い時期での変革が必要で、大変ですが、まずは交流館を知ってもらうための取組と、これとあわせて、地域の核になる人材を交流館が知って生かすような取組の両方が必要だと思います。交流館が楽しいと思えるようなイベントと地域のまちづくりと一緒に成れないかと思っています。コミュニティの立ち上がりと一緒に成りながら、コーディネートできると短い期間で

育てられるのではないかと思います。

会 長：公民館法では、地域住民が教養を高めるといことと、地域づくりを担うといことうことがうたわれていたと思うが、後者をやるということですか。

事 務 局：ご指摘のとおりで、これまでに社会教育活動を支援する場としての公民館から、地域活動を支援する交流館としてシフトしてきました。都市内分権を進める中ではさらに、地域住民の自治活動を支援する取組が必要ではないかと考えています。これらの違いを含めて、地域活動の基礎づくりについてお知恵をいただきたいと思います。

委 員：交流館利用を見ると、小原交流館はかなり利用者が多いのですが。

事 務 局：小原では公民館がかなり立派に作られていて、他町村に比べて取組に力を入れていましたし、活動も活発だったと思います。

委 員：地域のコミュニティ会議で各自地区から代表者が出てくると、これがきっかけとなって交流館を利用するようになっていきます。男性が交流館を利用するには、きっかけが必要です。自治区の役員になって否応なしに連れられてくるようなはっきりとした動機が必要だと思います。

また、コミュニティ会議と地域会議の位置づけが心配だが、コミュニティ会議は、同じようなスタイルで残していただく方がよいと思います。

委 員：交流館がうまくいくのとコミュニティ会議がうまくいくというのは表裏一体だと思います。コミュニティ会議の仕事の8割は青少年関係の仕事で、私も青少年関係の活動を通して、旧町村のコミュニティ会議との関係でもどかしい部分があります。旧町村部でも一生懸命勉強していることはわかりますが、交流館とコミュニティ会議がどういうものか、どこを目指しているかの認識が漠然としているのではないのでしょうか。合併してこれだけ経つのに、まだうまく情報が流れないと感じることがあるので、旧市・旧町村の交流会を開催してもらって、地域が交流館と一緒に育てるように動きたいと考えています。旧町村の方が旧市の会議にも参加していただき、活動風景を見てもらい、逆に旧市も旧町村部を見に行こう、というような取組を無理やりにでもやっていかないとダメだと思います。

委 員：コミュニティ会議と地域会議との連携というのは、格好はいいことばですが、互いの力関係がどうしても出てくるもので、旧市の側では、コミュニティ会議の方が衰弱化する心配をしています。旧町村部では、地域会議に有志の会が入るなど、地域会議の方が先行して進められていて、コミュニティ会議はまだ力を蓄えていないように思います。

委 員：交流館を退職し、今は離れた立場で交流館を見ていますが、交流館活動はなかなか見えにくいという印象です。豊田市の今の形になってきたのは、交流館がコミュニティ活動を担ってきたからで、これがあるから交流館活動が活発になってきたように感じます。自治区コミュニティという活動で小規模を作りましょうとしたことで、自治区が盛んになり、その際に、コミュニティ会議は情報交換の場と説明されましたが、今も場は変わらず、関わっている人だけが大変な思いをし

てやっています。

委員：昨年度の調査報告についての整理の中で補足させていただくと、今回の議論は、都市内分権をいかにスムーズに進めていくかが前提にあると思います。都市内分権の前提として、基本的な条件整備をするために、報告書では、1点目として小規模コミュニティの活性化について述べています。旧町村も旧市も、自治区が相当傷んでおり、地縁組織の力が落ちてきていることを昨年の調査で感じました。大きな課題は、地縁の活動が弱体化することだと思っています。一番基盤になるための組が解体してよいはずがありません。どうやって再生するのが課題だと思います。豊田市の交流館は全国的にも整備が充実してきています。小規模コミュニティの活性化の中で、交流館がなしうる役割、果たせる役割などを報告書に書かせていただきましたが、交流館に議論を集中化させるのではなく、総合的に議論することが大事だと思います。

事務局：おっしゃるとおりだと思いますが、交流館の人数を単に増やすだとか、組への直接支援の仕組みを作るということは考えておらず、現行の仕組みの中で、生涯学習部門として対応しうることをやっていきたいと思っています。

事務局：日常生活の状況から議論しなければならないということは、牧野先生のご指摘のとおりで、これまでも「向こう三軒両隣」の考え方は基本で、過去にも自治区をコミュニティの核にしようという話もありました。それをさらに、組まで掘り下げたことはなかったですが、根本はそういうところにあったと思います。時間がかかってもいいので、ぜひベースから議論するべきだと思います。

委員：交流館を活発にすることよりも、これがあることによって、住民がいいということがなければ活動が活発化しないと思います。旭町では、みな顔が見える関係なので、市内のように非行などは関係ないし、鍵を掛けなくてもいいという話を聞いたことがありますが、地域によって活動の中身も違うと思います。

私は豊田市に転居してきたとき、公民館があることで私の行く場所があって助かってきたと思っています。そのころと比較して、今の交流館にはいろいろな機能があるので、これらを補完するものがなければ職員は大変だと思います。地域コミュニティ、地域会議・自治区が役割をうまく織り成すように重なりながら、それぞれの住民が自覚的に自立的な活動ができ、全体としてあがっていったらいいと思います。交流館を利用したらこんなふうがいい、というのは地域に違っていると思うので、まず、意見を聞いてもらうといいと思います。意見を聞くことが参加の始まりですから、活用者も増えると思います。

会長：交流館の機能の多角化をうまく生かしてほしいということですね。

委員：利用者増の話もありますが、健全な地域が作れるかどうかが一番大事だと思います。このとき、一緒に住んでいる地域体としてのコミュニティも大事ですが、隣近所だからコミュニティというのは難しくなっています。趣味や目的でつながっているコミュニティまでを含めて、交流館の利用だと考えると利用者の増という視点は、やはり抑えておく必要があると思います。

もうひとつは、犯罪意識です。過疎地域で道が良くなると、地域の子どもが犯罪に巻き込まれる率も高まりますので、旧町村部の方々にはもう少し、意識を高めてもらいたいと常々思っています。

委員：旧町村部に対しての働きかけは、その交流館が地域に聞くことが大事で、地域の人を交流館の人との話し合いをもつ必要があると思います。

事務局：地域のことは地域のことでしかわからないと言うのはご指摘のとおりで、具体的な取組は地域が考えたり、実施することだと思います。その前段として、旧市内の交流館としては、コミュニティ会議と連携しながら、しくみができてきています。交流館も核となりながら地域の問題を取り上げようということにしています。ただ、旧町村の交流館はそういう取組をしてこなかったことから、スタッフや人材もいませんし、支所で考えろといってもスタッフ・地域人材をつかめていないので、実現するために交流館の果たす役割、しかけかたについて、ご意見がいただければということでご提案させていただきました。

委員：今、高橋地区で宛て職として交流館運営委員会に出席していますが、メンバーは地域の方がほとんどで、自分は外部の立場から、一步斜めに見ていますが、交流館もコミュニティも実効性のある活動をしていると思います。苗字を聞けば住所がわかるくらいの従来からの住民と、新しく高橋地区に転居してこられて2世代目に入ったような住民の方がうまくそれぞれの持ち味を生かして地域が運営されているように感じます。例えば、コミュニティの会長を古くから住んでおられる方と新たに移ってきた方が交互で務めるということなど、うまいやり方だと思います。低所得層、保護世帯が多いところですので、そういう方々への支援も配慮してやっておられます。これも活動を活発にしていることだと思います。合併町村部の活動が低調と決め付けていいのかということにつながりますが、地域に応じて状況が違います。ひとまとめにするのではなく、特色をきちんと抑える必要があると思います。資料の3の2ページ、4に小・中学校との連携とありますが、高橋中学校は交流館と共催で生涯学習フェスティバルをやっています。中学校の文化祭と生涯学習フェスティバルを共催でやって5～6年になります。旧町村は1町村1中学校1交流館でやっていますので、コミュニティの中核を中学校がかなり担っていると思います。中学校とのタイアップというのは、青少年の健全育成の分野以外にも、地域コミュニティの振興につながるのではないのでしょうか。

事務局：人口増に伴って、旧市では中学校は増えましたが、旧町村部では、むしろ統廃合を繰り返して減ってきたので、状況は違っています。旧町村部のコミュニティの活動の中心は、字や小学校単位であり、あぜ道で立ち話と言うことの方がまだ生きたコミュニティという状況です。人が少ないので、コミュニティの役が、一人にいくつも集中しているような実態があります。

会長：地域に任せると言うことが大事だと思いますが、その時に、各館のデータを流してもらうことが大事です。コミュニティ会議と地域会議の関係や、そういったものが不明確でどうしていいのかが、わからない状況だと思います。しかし、わ

からないものを限定し、特化するのではなく、地域が絡んでいくように、考えていくということにしたいと思います。

事務局：一度整理し、先生と意見のすり合わせをさせていただきます。都市内分権の考え方も整理させていただいています。

委員：合併して新しい豊田市になって、基礎レベルのコミュニティが機能不全を起こしている印象があります。生活コミュニティである地域と目的思考でむすびつく地域会議があるとすると、生活コミュニティの活性化も大事だと思います。地域にも自己責任はありますが、放っておけるかという話があります。生活コミュニティをどうするかは視点は必要なのではないかと思います。

(2) 教育行政計画に関する意見交換について

委員：6 - 3 - 3 - 4 制の教育基本法の見直しでは、飛び級制度などが入ると思うが、幼稚園・小学校の連携や、1 ~ 3 年の混合学級などはどう取り組んでいきますか。

事務局：6 - 3 - 3 - 4 制を変えらるような議論はしていません。学校に係する事件に伴って、幼小ギャップ、小中ギャップなどの話が出ました。幼小中の連携には審議会の方で議論を割いてきましたし、案にも盛り込んであります。

委員：子ども集いの広場の推進がありますが、交流館の子育てサロンとは別ですか。どこに設ける予定ですか。

事務局：現在、保育園の統廃合を進める中で、出てくる空き施設の利活用として実施したいと考えています。子育て支援センターなど、自分たちで活動できる施設をイメージしています。

委員：生涯教育の観点のコストで見ないでいただきたい。生きがい対策、子ども対策などにコストがかかることを十分承知しておいていただきたいと思います。

委員：地域での子どもの居場所作りの状況はどうなっていますか？

事務局：子ども部の大きなテーマですが、1つは、小学生の放課後対策で、保育に欠ける子を行政が見るということで、もう1つは、安心・安全・異年齢・自主的活動ということを前提に住んでいる所と近いところで地元の有志の運営でできないかと自治区に投げかけさせていただいています。

委員：保育園や幼稚園の子ども定員を、どのように決めているのでしょうか。小さいときにケアすることで教育の問題を予防できる話があると思います。私は60人定員の世代でしたが、できるだけ定員を下げてほしいと思います。特に年長児が多いのが問題だと思います。

事務局：来年から保育園と幼稚園を1つにして子ども園という形にしようと思っています。定員は、国からモデルが示されていますが、豊田市らしさをだすために、現在検討中です。

委員：教育行政計画との関連で、資料3の交流館事業の推進についての中のキーワードが重要になってくるだろうと思いますが、キーワードの選定の仕方はどうやっていますか。

事務局：キーワードの選定については、各種計画を勘案して重要なものをあげています。教育行政計画も重要計画として、取り組むポイントを挙げています。19年度の子ども・親は、少子化対策に対応するものですし、生きがいについても、団塊の世代支援として、とりあげています。

委員：親子で開催する伝統行事の支援について、未野原地区では、講座の参加者の多くはよその地域の方です。自主グループも、地域の方だけではなく、よその方がある程度入っていますし、地域のつながりではなく、趣味のあった方々同士のつながりに流れる傾向にあると思います。子ども会の行事やコミュニティ会議の青少年育成部会など、地元の活動では、与えられた行事をこなすので精一杯ですし、お母さん同士の好みもいろいろありますので、地域でのつながりは難しいと思います。

事務局：教育行政計画は、まだ作成の段階で、11月めどでパブリックコメントを行う予定です。この会議から出た意見は参考とさせていただきますので、いつでも事務局までお寄せいただきたい。

3 報 告

事務局より連絡